

JAMCA ジヤムカ

ニュース

The Japan Automobile Maintenance Colleges Association

No.28

2001年1月1日

発行
協会事務局
編集事務局全国自動車整備専門学校協会
〒160-0015 東京都新宿区大京町31
ヴィップ新宿御苑 ☎ 03-3356-7066
〒125-0002 東京都葛飾区西亀有3-28-3
☎ 03-3601-2535 FAX 03-3601-2988

価値観の劇的な転換期

関東工業専門学校理事長 中川 裕之
全国自動車整備専門学校協会会長

新年おめでとうございます。

21世紀の幕開けを迎え、JAMCAにとって飛躍の年となる予感がするのは、私だけではないと思います。

私たちは今、インフレクションポイント＝転換点にいます。この転換点とは、単に変化している状態をいうのではなく、IT革命に象徴される劇的な構造変化の状況を表現する言葉で、根本的な価値観の変化、言い換えれば、「今までの常識が通用せず、新しい常識が次々に生まれる」ということです。

アメリカ大統領選での現象は、本家本元でも、従来の常識が否定され、新しい常識が生み出される混乱が生じていることが分かります。

われわれ教育業界においても、学校教育法の改正により、専門学校と短大が法的に同格となったことは、まさしく、転換点における価値観の変化であります。

そして、「雇用ミスマッチ」という言葉が労働省から発信され、マスコミでも日常語となり始めました。

採用する企業側の求める人材と、職を求める学生達の要望が食い違っているのです。くどいようですが、これも価値観の転換なのです。

大学出たら専門学校へ

5年前、日経連から文部省に提出された「21世紀の教育への提言」で、専門知識・専門技術を有すること、自己責任の行動をとれることがその趣旨でありました。しかし、大学はその変化に対応できず、学生もブランド的進学選択の態度を変えなかったために、そ



の現実の結果として、「雇用ミスマッチ」が発生したのです。

しかし、このミスマッチにいち早く気づき行動を起こしたのは学生でした。大学から専門学校への再入学、あるいは在学中に専門学校へ入学する学生の数は、15万人を超えるほどなのです。

ブランド的選択で大学に行ったけれども、就職を考えた時、専門知識・専門技術が必要だと大学に入ってから初めて気が付き、行動し始めたのです。

欧米では、将来の職業を念頭に学校を選択するのが常識ですが、わが国では、ブランド志向での学校選択が普通でした。そのことに終止符が打たれたのです。

自動車整備士制度も転換点

そのような、社会背景から新しい一級自動車整備士制度が生まれたのは正に天の声だと思います。つまり、自動車整備士制度の転換点なのです。

優れた自動車整備技術が必要なのは当然ですが、それだけでは、これからの自動車産業界で活躍できる保証はなくなりました。創造性を持ち、豊かにコミュニケーションの取れる自動車整備士を社会が求めているのです。

例えば、環境を含めて自動車にはいろいろな先進技術が導入されています。ところが、このようなシステムをユーザーが使用できる知識を十分に持っているでしょうか。これからは、安全で快適な車の使用方法を、専門用語を使わずに、分かりやすく、社会に広めるのも自動車整備士の仕事になります。

同様に、ユーザーが車の購入時に、正しい選択を出来るように全ての正確な情報を分かりやすく説明し、その後のオペレーションの相談相手になるのも自動車整備士の仕事です。直接的に言えば、車の販売・営業も自動車整備士のプロとしての仕事になるのです。

このような、新しい自動車整備士像を、社会に対して明確に示すのが、一級自動車整備士制度でなければなりません。そして、わが国の若者たちにとって、将来が展望され、夢と希望を与えることの出来る資格にまでしなければなりません。つまり、自動車整備に携わるための資格から、わが国の基幹産業である自動車産業界で幅広く活躍するための資格への転換なのです。

われわれJAMCAは、高まる社会からの期待に答えるべく、全会員一致して努力を重ね、21世紀の第一歩を確実なものにしたいと思っています。

CONTENTS

- 2面 OPINION
- 3面 我が校自慢 (新コーナー開設)
- 4・5面 特集・急ピッチで進むIT化
- 6面 協会トピックス
- 7面 活躍卒業生・地区通信
- 8面 私の教材活用・編集後記